



平成 30 年度公益財団法人櫻谷文庫事業計画

基本的考え方

櫻谷文庫は、木島櫻谷の居宅である和館、洋館、画室の建造物および櫻谷作品、習作、写生帖等、櫻谷収集の書画書籍類などの収蔵品からなる。また、建造物 3 棟は、国登録有形文化財、京都市景観重要建造物、京都市指定有形文化財に登録、指定されている。

収蔵品については、櫻谷作品、習作、写生帳や画材、手紙類など櫻谷の制作に関わる資料類、さらに櫻谷の収集した中世から近代にかけての陽明学朱子学関係日本画関係書画、詩文集、書籍、典籍や、近代美術関係資料など一万点以上からなる。建造物、所蔵品の一般公開・展示、収蔵物資料等の調査、整理、データベース化のため、建造物の維持修復、収蔵品等の維持、修復、調査、研究を進める。これらにより、近代建築史、美術・美術史、芸術の振興、学術研究への寄与、京都市を含む地域振興をめざす。また隣接する学校法人ヴィアートル学園等と連携し、教育活動の推進のため協力、支援をすすめる。

公益目的事業

- (1) 2018年（公財）京都古文化保存協会共催 平成30年度京都非公開文化財特別公開
期間 2018年4月27日(金)～5月6日(日) (10日間)
公益収入 入場料(400円×40人/日×10日=)160,000円
公益経費 (古文化保存協会負担のため)=0円
収支 160,000円
- (2) 2019年春の櫻谷文庫公開展示 ～ 今小路通り沿い連携公開への協力(独自)
「桃の節句」の時期の公開・展示
期間 2019年3月2日(土)～3月31日(日)の金土日祝(15日間)
公益収入 入場料(600円×70人/日×15日=)630,000円
公益経費 人件費(15日×5人×6,500円=)487,500円、印刷代 30,000円、雑費・通信費 20,000円 計 537,500円
収支 92,500円
- (3) 櫻谷文庫の随時公開1.(独自)
京都市文化財マネージャー育成講座、泉屋博古館の博物館講習への実技実習協力の事業、立命館大学文学部京都学講義、立命館大学アトリサー



チセンター、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築造形学部門演習、衣笠小学校社会科見学など教育・研究への協力、併せて京都市 MICE 推進事務局に連携し、映画、テレビドラマ制作に協力する。

公益収入 75,000 円(内訳 大学講義演習関係 50,000 円、文化財マネージャー育成講座 20,000 円他映像制作協力関係 50,000 円)

- (4) 櫻谷文庫の随時公開 2.(独自)
随時公開については、グループ、団体等との時間調整の上実施する。
- (5) 建築物の修復保全
- (6) 地域、美術系、学術教育、映像メディア連携と櫻谷文庫情報の拡散(独自)
等持院等地域の観光スポットとの連携、衣笠地区の堂本印象美術館、高津古文化会館他美術系法人、地域の等持院、真如寺、平野の家わざ永々棟他との連携、京都への来訪者の多い東京での PR 強化のため京都市東京事務所、京都館(東京・八重洲)、江東区文化コミュニティ財団、住友財団との連携、京福電鉄、JR 西日本京都交流推進委員会、JR 東海京都・奈良・近江文化情報事務局、京都市観光協会(京都駅観光総合案内所を含む)、京都新聞社、KBS 京都、NHK、フジテレビ他との連携、情報提供を強化する。既存メディアだけでなくインターネット・メディア Facebook、Twitter 等の活用、継続的情報発信によりメディア・ミックスによる情報拡散を図る。
- (7) 櫻谷文庫収蔵品の調査・整理データベース化(共同)
 - ① 書簡等
数千点以上の書簡類等の整理、調査を終了する。スキャナーでの画像取込み、整理をすすめ成果の公開、展示につなげる。なお、経費の発生を抑えるため、調査、整理については臨時アルバイトを雇用せず、泉屋博古館学芸室実方葉子主査、櫻谷文庫業務執行理事門田節の 2 名で実施する。
 - ② 画材
櫻谷の画材等の調査、分析、膠、顔料、墨、硯など画材類が櫻谷存命中のままの状態で遺されており、京都市立芸術大学の協力で、公益財団法人泉屋博古館との共同での分析、調査をすすめる。調査結果をもとに、現在調査中の書簡類、写生類、古典書類の調査とあわせて国登録有形文化財(美術工芸品)指定を働きかける。
高知市で 2018 年 6 月 16 日(土)・17 日(日)の両日開催予定の文化財保存修復学会第 40 回大会での京都市立芸術大学高林講師らの発表に協



力する。

- (8) 櫻谷文庫収蔵品の修復・保全(独自)
- (9) 所在不明櫻谷作品の所在調査櫻谷後半生の文展、帝展出品作品を15年間にわたり連続して購入した小津与右衛門氏所蔵作品の所在について調査を継続する。
- (10) 木島櫻谷の墳墓の維持管理を実施する

収益事業等

洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に画室をアトリエとして、また地域在住者を主な対象とする整美体操教室(講師:井上敦子氏)に旧画室を教室として提供する。その他の事業として学校法人ヴィアツール学園との連携による教育支援活動を行う。洋画家浜哲郎氏に制作室として提供していた和館の一部について、教育、地域、美術芸術関係の活用を検討する。